
堂々映画化

唐務新斗

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

堂々映画化

【Nコード】

N4315Y

【作者名】

唐務新斗

【あらすじ】

とあるマイナーな漫画が実写映画化するというのだった。

とある漫画の映画化の企画が持ち上がった。それは一部のマニアには熱狂的に支持されているが、一般的には非常にマイナーな非常にマニアックな作品なのだった。

しかもアニメではなく、実写である。

どう考えても完全な映像化は無理だろう、ファンは思った。当然のごとくスタッフもそう思った。

とすれば、ここはアレンジするしかない。カレーにも色々種類があつて、本格インドカレーは苦手でも、日本のリングとはちみつ入りカレーが好きな人もいる。

そんな風に、マイルドに万人に愛される、そんな映画をスタッフはとりたいと考えた。なにより、スポンサーが大喜びするのは間違いない。

完全オリジナルではないが、映画が作れるという喜びに胸を躍らせた若きスタッフ達は腕によりをかけて、この映画を成功させようと様々なアイデアを出して、議論は白熱していくのだった。

「まずさあ、主人公がおじさんっていうのがね。しかも、くたびれていて何と見えているこっちが疲れてくる。こういうのってね、やっぱりエンターテイメント的にはいまいちというか、まったくダメ」

そういうわけで、

「えー、僕はこういう俳優やるのって、まったく初めてなんですけど、もう監督のね、熱意がすごくて！僕も色々挑戦してみたくなって！ぜひぜひ観に来てくださいね！」

につこりと会見で笑顔の大輪を咲かすのは、まだ幼さの残る目鼻立ちのはっきりした美少年だった。

「それとき、脇役もこう言っちゃなんだけど地味だね。主人公が地味だからかもしれないけどさ、やっぱりもっところ色んな人達の

興味を引くというのがね、キャッチーさが大切なわけよ。だって映画だもんね」

こうして、肥満体からチビまで様々なタイプの中年男性ばかりの脇役達が、

「こんにちはー」

「もう、これってすつごくてすつごくで、本当に私でいいのかなってえ」

「でも、張り切っちゃいますよ。なにしろ、映画初挑戦ですからね。ちよつとセクシーな部分が多いかもっ」

「ええつと、とにかく頑張りますっ！」

全て幼女からお色気お姉さんまで幅広い年齢層の女性が一堂に会して思い思いにニコニコと意気込みを熱っぽく語る。

「でさあ、やっぱりね。こういうのって大切なのは恋愛よ、恋愛。誰とくつつくのかってというのがやっぱり一番肝心。分かりやすいって大切だよね」

「主人公のパートナー役を演じることになっちゃいましたあ。なんか原作では男の人なんですってね！でも、原作とは一味違う映画も楽しみにして欲しいなあ」

ちよつと挑発的な視線で豊満な胸をゆすりながら、オーディションで抜擢された新人女優がくすりと微笑む。

そして最後に、出演陣勢ぞろいでポーズを取った。

ぱしゃりかしゃつ、かしゃかしゃつ。

カメラのフラッシュが盛大に焚かれ、会見会場を華やかに盛大に彩ったのだった。

また、漫画のストーリーは、荒廃した未来を生きる男たちのタフでハードなサバイバル劇だったのだが、そういった舞台設定だと何かと手間がかかって仕方が無い。CGだって、万能と言うわけにもいかないし、なにより資金が足りない。

「と言うわけで、南国の無人島が舞台っていうのは我ながら良いアイデアだと思うんだよ。文明から離れているってことには変わりな

いしね。廃墟よりも色とりどりだし、主人公を囲む女の子たちにもぴったりの舞台なわけよ」

と、観光アピールも兼ねて、とある孤島が舞台に選ばれ、小さな島中あちこちに映画のポスターやのぼりが立てられ、さつそく饅頭も売られている。実際はこの島は無人島設定となるので、この小さな漁村は映画には一切出ないのだが、村人達はまったく気にしていなかった。

「だいたい、裏切りとか共闘とか、色々複雑すぎ。これ二時間に収めないといけないんだから」

一筋縄ではいかない利己的な人間のエゴと、それでも人を信じた主人公の物語は、南国の舞台にふさわしく、主人公たちの無人島生活の奮闘ぶりをコメディタッチに描くこととなった。

「うん、なかなかいいんじゃないかな。あの漫画の大切なところはしっかりと残しているしね」

至上命題・生存。

というキャッチコピーがでかでかと書かれたポスターを前に、監督は満足げにうなずいた。そして、それは漫画のキャッチコピーでもあったわけだ。

こうして、満を持して映画は封切られた。

そして、こういう結果と相成ったわけだ。

不安と期待がごちゃまぜになった雰囲気の中で封切られたんだけど、今となってはもうどうでもよいことである。

なにしろ映画は海外も含めて大ヒット、そのまま続編までドカドカ作られ、映画版を元にしたマンガ版まで発行されてベストセラー、今度はハリウッドでリメイクされるという大受けぶりと来たものだ。元祖であったはずの原作漫画は、今でも一部のマニアには熱狂的に愛されているから、誰にとっても大団円だろう、おそらくは。

(後書き)

コンテンツ不足

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4315y/>

堂々映画化

2011年11月17日13時08分発行